

米國小児学会(AAP)は BPA の事実を誤解している



[Steven Hentges, Ph.D](#)

2018年7月24日(木) [SAFETY](#)

先日の米國小児学会(AAP)のニュース[声明](#)の人目を引く見出しでは、「ありふれた食品添加物のいくつかは子供たちに健康上のリスクをもたらすかもしれない。」と主張しています。メディアの報道は、明らかに多くの質問をすることなく、一部は尾ひれがついた話です。

AAP の声明はさらに、米国食品医薬品局(FDA)が管理している現在の食品添加物規制プロセスには「重大な弱点」があり、「緊急に必要な改革」を求めていると指摘しています。食品添加物や食品包材中に含まれる化学物質の中には、子供の健康に害を及ぼす可能性のある「証拠」がある事が前提となっています。

これは全て説得力があるように見えます。あるいは、少なくとも立証要件のある声明のセクション、特に「最も懸念のある添加物」とされている例のリストに到達するまではそうです。リストの最初にポリカーボネートやエポキシ樹脂の原料として用いられている BPA が収載されています。

どちらの材料も食品接触用途で安全に使用可能で、この目的のために FDA が規制を行っています。これらの材料を食品接触用途に使用すると、ボツリヌス中毒やその他の食中毒などの汚染を防止し食品を安全に保ち、食料供給を保護します。

しかし、AAP の懸念添加物リストからは何かが露骨に削除されています。この声明とともに発行された技術的報告書では、BPA は「重要な研究と注目の焦点であった。」と認識していますが、最近発表された BPA に関する [CLARITY 研究](#)については少しも言及していません。技術報告書、関連する AAP 方針声明、あるいはメディアを惹きつけた記者発表文のどこにもありません。30 ページ以上にも及びますが、FDA が [BPA の安全性を再確認](#)するように促した BPA に関してこれまでにに行った研究の中で最も重要な研究である CLARITY 研究についての言及は一件もありません。

BPA の安全性に関する残された不確実性を解決するという明白な目的のために、FDA の上級科

学者が CLARITY 研究を行ったので、その些細な過ちはこの上なく皮肉なことです。AAP によれば、改革が必要と述べている同じ FDA によるものですから。

CLARITY 研究は単に従来と同じような研究ではありません。研究の範囲と規模はまったく前例のないものです。どのように AAP がこの非常に重要な研究を見落とし、BPA の安全性について我々に何を語ってくれたのでしょうか？

CLARITY 研究は秘中の秘であるとは言えません。この研究結果は、今年初めに米国国家毒性プログラム(NTP)が発表し、「BPA が有害である可能性は低そうだと連邦政府の研究が示した。」とか、「プラスチック添加剤の BPA の脅威は大きくないと政府の研究で発見」との派手な見出しが躍りました。AAP が政策議題を支持していない不都合な真実を無視することを選んだのでしょうか？

AAP が「すべての子供の健康に専念している」と記述していることを除いて、この過ちを看過するのは簡単かもしれません。そのためには、事実が重要なのです。